



パワーポイントを効果的に活用する

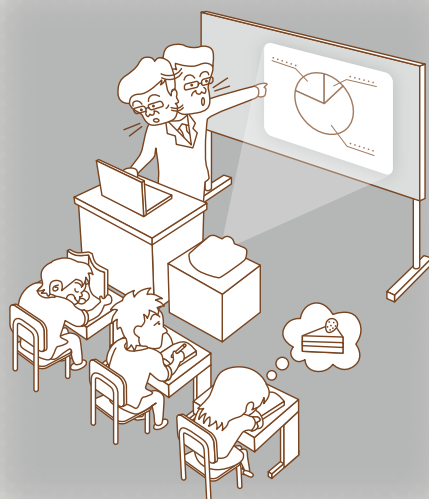
鹿児島大学 FD 委員会 FD ガイド WG

【発行／2014年9月】

多くの授業でパワーポイント等の提示資料が用いられています。事前に授業の内容をまとめることができ、学生にも学修内容をコンパクトに示すことができるという点で非常に優れたツールです。また、同じ講義を複数年にわたって担当する教員にとっては、改善もしやすくとても便利なものでもあります。

しかし、パワーポイントが必ず高い教育成果につながるとは言えないのではないでしょうか。板書のほうが良いと考える学生は少なくありません。また、スクリーンがよく見えるように教室を暗くすると、寝てしまう学生が増えてしまったり、ノートが取れなくなってしまうたりします。これでは逆効果です。

授業でパワーポイントを用いる場合に留意すべきことは何かを今一度考え、より高い学修成果を学生が挙げられるように活用したいものです。



1号

2号

3号

4号

5号

6号

7号

8号

9号

10号

1. なぜ学生が寝てしまうのか

- ◎ 部屋が暗いから
- ◎ スライドを見ながら一方的に説明を聴くだけだから
- ◎ スライドが印刷された配布資料があればノートを取る必要がないから
- ◎ 予定調和的に授業が行われるため、単調になりやすいから

2. パワーポイントの特徴

- ◎ 授業の要点をコンパクトに表すことができる
- ◎ 図や表、写真等を示しやすい
- ◎ 分かりやすく作成するのに時間と労力がかかる
- ◎ 図表や計算式をどういう順序でどのように書くべきかが伝わらない
- ◎ スライドが次々に変わるため、記憶に残りにくい

3. スライド作成の注意点

- ◎ 長い文章は控え、字数を少なくする
- ◎ 写真やイラストを効果的に用いる
- ◎ 要点を全て示さず、学生に考える余地を与える
- ◎ 記載内容の重要度の違いを明確に示す
- ◎ 色覚異常の学生にも配慮し、見えやすい配色を用いる

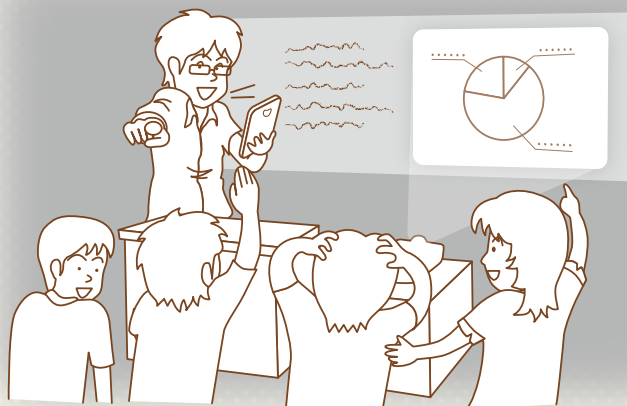


4. 授業の進め方の注意点

- ◎ パワーポイントに頼り過ぎず、口頭説明や板書、配布資料と併用する
- ◎ 説明をする時間と活動・作業を組み合わせメリハリをつける
- ◎ 動画を見たり説明を聴いたりする時間だけ部屋を暗くする
- ◎ 授業の進め方を時々変え、学生を慣れさせないようにする

5. 学生を集中させるために

- ◎ 全体に対して簡単なクイズをする
- ◎ パワーポイントを止め、学生が意見を述べたり発表したりする時間を設ける
- ◎ 写真や図表を示して問いを与え、考える時間を取った上で説明を行う
- ◎ 授業内容に関する小テストを毎回行う
- ◎ 最後に授業内容に関する質問を書かせる



関連 文献

● 授業の在り方、運営方法、教材作成等について考えるために

- ◇ 稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアル』北大路書房（2011年）
- ◇ 島宗理『インストラクショナルデザイン』米田出版（2004年）
- ◇ 鈴木克明『教材設計マニュアル』北大路書房（2002年）
- ◇ 山内祐平編『デジタル教材の教育学』東京大学出版会（2010年）

● パワーポイントをより分かりやすく作るために

- ◇ 宮野公樹『学生・研究者のためのPowerPointスライドデザイン』化学同人（2009年）
- ◇ ガー・レイノルズ『プレゼンテーションzen』ピアソン・エデュケーション（2009年）

【鹿児島大学FD委員会FDガイドWG】

伊藤奈賀子(教育センター) 梁川 英俊(法文学部委員) 藤野 敏則(医学部委員)
坂巻 祥孝(農学部委員) 高橋玄一郎(教育センター-外国語教育推進部長)